

平成21年8月の解説（府県天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は中頃に台風第8号が先島諸島に接近し、この地方で暴風や大雨となりました。また8日～11日ころ、日本の南海上を東進した台風第9号の影響で、九州から東北地方にかけて大雨となりました。特に兵庫・岡山・徳島県などでは記録的な大雨となり、甚大な被害が発生しました。中旬は、北日本では低気圧などの影響で曇る日が多くなりましたが、その他の地方は高気圧に覆われておおむね晴れました。下旬は南西諸島以外では初め低気圧と寒気の影響により所々で雨となりましたが、その後は移動性高気圧に覆われ各地とも晴れました。しかし旬末には気圧の谷や台風第11号などの影響で曇りや雨となり、東北地方と関東地方では暴風雨や大雨となったところがありました。南西諸島では期間を通じておおむね晴れました。

月を通しての日照時間は、南西諸島では平年より多くなりましたが、その他の地方では平年より少なくなりました。降水量は平年に比べて北日本と西日本の日本海側と南西諸島で少なくなりました。気温は北日本と東日本で平年より低くなりましたが、南西諸島ではかなり高くなりました。

【8月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が81%で例年^(注)より2ポイント高く、明後日予報が79%で例年より5ポイント高くなりました。地方毎の適中率では、明日予報は大半の地方が例年より高くなり、特に東海、近畿、沖縄地方で7から8ポイント高くなりました。明後日予報も大半の地方で例年より5ポイント以上高くなり、特に近畿地方で12ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差はほぼ全国的に例年並となり、全国平均は例年より0.1 小さい1.6 でした。また、最低気温の予報誤差もほぼ全国的に例年並で、全国平均は例年より0.1 小さい1.1 でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の天気予報から】

8月は、関東甲信地方にとって9月に次いで平年の台風接近数が多い月です。今年は、第9号と、第11号の二つの台風が接近しました。

第1図に、第9号と第11号の経路図の一部を示しました。第11号の方が関東甲信地方の近くを通過していったことがわかります。

では、これら二つの台風により東京地方でどのような雨の降り方をしたのかを見ていきましょう。

台風第9号がまだ四国沖にあった10日の朝5時に発表した東京地方の10日の天気予報は「雨 多摩西部では雷を伴い非常に激しく降る」でした。気象庁では、1時間に30ミリ以上の雨を「激しく降る」、1時間に50ミリ以上の雨を「非常に激しく降る」と表現します。台風がまだ日本の南海上にあり、東京地方からはるかに離れているこの時点で、東京地方は全域で雨、しかも多摩西部では1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨を予想

しました。これに対して、レーダーの解析によると、10日朝には23区西部、23区東部、多摩南部で1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨となりました。また、東京の大手町では、10日7時までの1時間に35.5ミリ、8時までの1時間に31ミリの激しい雨を観測しましたが（第1図上）。その後、台風第9号は日本の南海上を東に進み、11日の日中に伊豆諸島付近を通過しましたが、10日夕方以降、東京地方では激しい雨は降りませんでした。

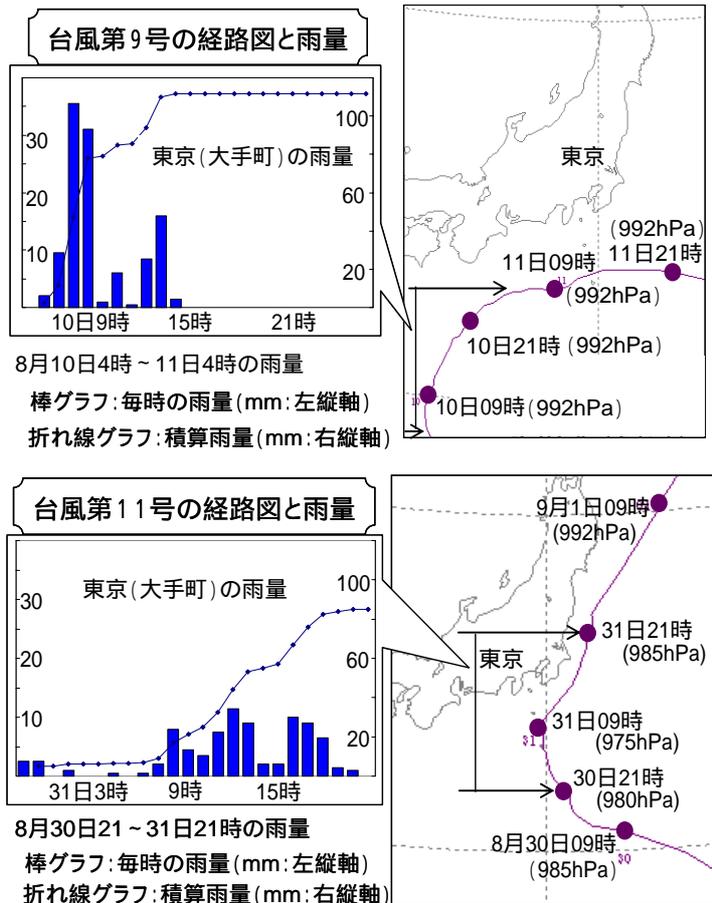
一方、台風第11号は、31日の日中から夜にかけて伊豆諸島から房総半島沖を通過して茨城県沖を北上しました。31日朝5時に発表した東京地方の31日の天気予報は、「雨所により昼過ぎから夕方激しく降る」でした。ところが、31日の東京地方は1時間に5ミリ～10ミリ程度の雨が降り続いたものの、1時間に30ミリ以上の激しい雨は降りませんでした（第1図下）。

このように、台風による雨は、中心がまだ遠くにあっても激しく降る場合もあれば、中心が近づいても激しくは降らない場合もあります。また、長い時間降り続く間に、激しい雨や時には1時間に80ミリ以上の猛烈な雨を伴うこともあります。

台風には一つ一つ特徴があるほか、周囲の気象状況により、雨の降り方だけでなく風の吹き方もそれぞれ異なります。台風が近づいているような場合でも、単に台風の中心の動きだけに注目するのではなく、警報などの防災気象情報や天気予報でお伝えする雨の降り方や風の吹き方などに留意しつつ、防災への備えと対応をお願いします。

【10月の天気予報の利用にあたって】

秋になると低気圧・高気圧が交互に通過するようになります。低気圧が通過するときには雨や曇の天気、高気圧に覆われると晴れの天気と交互に数日の周期で繰り返すようになります。さらに移動性高気圧が連なって、晴れの日が続くこともあって、さわやかな秋晴れの日が多くなります。また、低気圧が急激に発達しながら日本付近を通過し、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。大雨や強風についての気象情報が発表されたときは、常に最新の注意報や警報などを入手・活用して十分に注意されることをお勧めします。



第1図 台風経路図と東京(大手町)の雨量
上: 台風第9号 下: 台風第11号